

## 彼の夢:世界と戦える日本人を育てる

結婚式の二次会で十数年ぶりに学生時代の友人に会った。外見はほとんど変わってはいなかったが、差し出された名刺には、「社長」とあり、しかも、愛らしいクマの絵まで書いてあった。彼は理系で、大手機械メーカーに就職し、その後世界的な大手ITソフト企業の日本支社に、さらにアメリカ本社に転職し、ITエンジニアとしてソフト開発をしているはずであった。ところが、彼は、今や、幼児用の英語教育のベンチャー企業の社長である。クマちゃんは、その会社のキャラクターなのだ。

彼が会社を興したきっかけは、息子さんに英語を教えるための良い教材がない、というものであった。なんでも、息子さんは、生まれたときからほとんどアメリカで育ったにもかかわらず、英語がさほど話せないらしい。彼自身も帰国子女だが、息子さんほど海外に滞在していなくても、同い年のときには、もっと話せたという。しかし、「僕が、日本のテレビ番組とか、好きなだけ見られる環境にってしまったせいかもしれないけれど、息子は英語が話せないんだよ」。ところが、どうやって教えたらいいかわからない。何かいい教材はないかと探すうちに、オンラインゲーム感覚で遊びながら英語を学べる学習サイトを開発しようと思うに至り、とうとう社長になってしまったらしい。

きっかけは、自分の息子だが、彼の夢はもっと大きい。将来は今以上に日本人が日本の中だけで生きていけるわけではないから、日本人に、世界中の人と英語で戦える（議論できる）だけの語学力を持ってほしいというものだ。彼自身、アメリカの会社で、英語で喧嘩しながら仕事をしてきたのだ。だから、「学校では、英語を話せない先生が英語を教えているような状況だから、先生の能力に左右されずに、子どもが英語力を伸ばせるような環境を作りたい」と言う。

ただし、事業環境は厳しい。そのオンラインゲーム

のような英語学習サイトを使うためには、月何千円という形で料金を支払わなければならない。ところが、オンラインでの英語教育というのは、インターネットの画面に広告を掲載して、無料にしたり、安価だったりというものが多らしい。しかし、彼は、子どもの教育のための教材に広告を掲載するのは、教育目的を損なうと考えている。彼の興味は教育にあって、金儲けにはない。しかし、ビジネスモデルとして成り立たなくては、教育自体が実施できない。当時聞いた時点では、実際に料金を支払ってくれる人の数は少なく、ビジネスの素人の私が聞いても、まだ経営が成り立っていないし、今後の経営の厳しさも感じられる状況であった。

それでも、彼がこの事業に挑戦できるのは、投資家がいるからである。もっとも、「ハイリスクだからね。日本では投資してくれるところはほとんどないよ」。ところが、アメリカには投資家がいた。無論、数年後を期限に経営の見通しが立たなければ、会社はつぶれるし、その可能性も残念ながらまだ小さいとはいえない。ただし、その場合も、おそらく彼個人が多額の借金を負うわけではないだろう。また、彼自身は、そのシステムエンジニアとしての能力と、戦えるだけの英語力で、世界のどこかで仕事を見つけるだろう。

とは思いつつ、日本人を英語で世界と戦えるようにする、という彼の夢が何とかしてビジネスとして実現しないかと願っている。彼は、教室での授業といったリアルな形での英語教育との連携を探していて、インターネットの検索によれば、ある幼稚園と提携するなど、少しずつ事業を拡大させているようでもある。

そして、何よりも、この国が、彼のように、日本の将来を切り拓くという夢を持って、事業を興そうという経営者を育て、支える社会であってほしいと望んでいる。

(合歓木)